



下川町に広がる森林

林業再生の 活力源となる 森林組合づくりを 目指して



串間市に本所を置く南那珂森林組合と北海道の下川町森林組合が友好組合協定を締結しました。今後、都道府県を越えた交流で、「全国の林業再生の活力源となる森林組合づくり」を目指します。



串間市に本所を置く南那珂森林組合（島田俊光組合長）が北海道の下川町森林組合（山下邦廣組合長）と友好組合協定を締結。9月2日に北海道下川町林業総合センターで行われた調印式で、野辺修光串間市長と安齋保下川町長立会のもと島田組合長と山下組合長が協定書に署名、押印しました。

- ・協定の内容は、組合員の資質向上や経営・技術などの情報交換、両地域の加工品・特産品などの販路拡大などを目的に、
- ・森林組合員、役職員の相互の交流
- ・組合相互の持つ経営・技術などの情報交換
- ・グリーンツーリズムを通じた交流
- ・木材の利用および特産品などの販売
- ・季節による組合相互事業の交流
- ・地球温暖化防止などの環境に関する情報・技術の交流

以上、6項目となっています。

南那珂森林組合と 下川町森林組合

南那珂森林組合は平成13年10月1日に串間市森林組合と日南地区森林組合（当時1市2町）が合併して誕生しました。

組合員は約7千人、年間取扱額約15億円。南那珂地域の森林面積は約6万5千ヘクタール。温暖な気候と、約400年もの歴史を持つ「赤杉」を主体とした豊かな森林資源を背景に、森林整備、販売、指導、加工の各部門で事業を展開しています。今回の協定に先んじて平成14年には大阪府森林組合と友好組合の協定を交わし、山村と都市間の交流を推進、また、バイオコークスなどの木質資源の推進など、環境を重視した取り組みも始めています。

一方、下川町森林組合がある下川町は、北海道の北部に位置する人口約3、700人の町。町の総面積は6万4千ヘクタールで、その約9割を山林が占めています。年間の最高気温は約30℃、最低気温が約マイナス30℃と、年間の温度差が約60℃にまで達し、11月中旬から4月中旬まで雪が降りる北海道特有の冬が長く夏が短い地域です。下川町では森林を活用したさまざまな取り組みを展開し、林業・林産業の振興を図ることで地域経済、社会全体の活性化を図っています。

下川町森林組合は組合員約340人、年間取扱額約10億円。この地域で生産されるのはおもにカラマツやトドマツなど。FSC森林認証の理念に基づく循環型林業経営を柱に、町唯一の資源である森林を守り続けています。森を育て、産出される木材の販売、小径木、低質材の付加価値を付ける加工事業に取り組み、「ゼロエミッションシステム」を確立しています。また南那珂森林組合同様、バイオコークスの取り組みもいち早く始めています。

林業再生を目指して

南国と北国という環境の異なる両組合。それぞれの地域の特性を生かし、将来に渡りさまざまな分野で交流を図り信頼と友好を深め、それぞれの地域への社会的、文化的、経済的に貢献すること、そして「全国の林業再生の活力源となる森林組合づくり」を目指して、この協定を結びました。今後、両組合がさまざまな事業を展開しながら、人の交流、技術の交流、文化の交流を通じお互いを高め合い、日本の林業を再生、活性化させていくことが期待されます。

北海道 下川町森林組合



代表理事組合長
山下 邦廣さん

林業界は「環境に配慮した持続性」「森林の多面的な機能の発揮」という新しい流れに変わって来ました。このような中、北国と南国という環境の異なる両組合が、それぞれ地域の特性を生かしさまざまな分野で交流を図り、信頼と友好の絆を深めていきたいと考えています。お互いに活発に活動することで両組合のさらなる発展につながると確信しています。

宮崎県 南那珂森林組合



代表理事組合長
島田 俊光さん

環境に配慮した取り組みに積極的な下川町森林組合が確立しているゼロエミッション・システムは、ぜひ取り入れていきたいと考えています。また、北と南の環境の違いを生かした事業配分やグリーンツーリズムにも取り組み、今後、人材や技術の交流を積極的に進めながら、それぞれの持つノウハウを提供し合い、お互い発展していきたいと考えています。